Keyword KSD　小学校　解釈　初学者

# KSDの新たな解釈可能性について

## ―KSD解釈表の作成検討―

国際文化研究科 国際文化専攻
臨床心理学研究分野 博士前期課程
2024年3月修了

**中原桜花**

**主査** 森川友子　**副査** 藤吉晴美　命婦恭子

### 研究背景

学校現場における種々の問題の解決のために、児童生徒を直感的に理解し、支援者同士がその理解を共有できるツールとして、描画法が有効と考えられる。学校をテーマとする描画法にProut et al.(1974)の考案した動的学校画(KineticSchoolDrawing：以下 KSD)がある。KSDは学級内における児童・生徒の心理的な側面を知り，学級適応感や人間関係等を描画者がどう思っているのかを測定するための描画法である(名島ら，2005)。

### 研究目的

KSDの現在のスコアリングでは学校適応上、精神面での問題があるかないかの解釈に偏りがちであり、描画者の伸ばせそうな能力や描画者の志向性などの解釈は殆どされてこなかった。本研究では、初学者等でも多角的な解釈ができるように KSDの新たな解釈表を作成し、初学者等にも活用可能か調べることを目的とした。

### 研究概要

研究1では従来の解釈基準で複数の項目においてネガティブと判断される描画について、5名の心理職者による検討を行い、KSDの新たな解釈表を作成した。その結果、描画者の伸ばせそうな能力、エネルギーの豊かさなどポジティブな評価をする項目等が多く搭載され、これにより、解釈を初心者等が行う際に観点を広げることに繋がると考えられた。

研究2では描画法初心者に研究1で作成した解釈表を用いて解釈を行ってもらい、初学者等にも活用可能か調べた。調査協力者は大学生4名であり、評定対象の描画は研究1と同じ、ネガティブと評定され得る描画の中から 3枚を評定対象とした。

その結果、過半数の評定において、ポジティブ・ネガティブ両方が含まれる解釈が行われた。また、調査協力者からの感想には、解釈表が評価者の視野を広げるという点で意義があったことや、多くの解釈仮説があり解釈に迷ったという意見がみられ、これらは解釈表中、解釈仮説をポジティブ、ネガティブ、中間と分けて記載したことの効果であると同時に、解釈表についての説明文の内容や解釈という行為そのものについての説明も検討していくことでより目的に沿った解釈表となる可能性が示された。

### 成果・まとめ

結果：作成した解釈表の殆どの項目においてポジティブな解釈が追加、描画者の得手不得手、志向性を見る項目などを評価する項目が多く搭載→KSDの解釈を初心者等が行う際に解釈の観点を広げることに繋がり、よりポジティブな側面に着目した関わり方が可能になったものと考えられる。過半数の評定において、ポジティブ・ネガティブ両方が含まれる解釈が行われた→解釈表中、各項目の解釈仮説をポジティブ、ネガティブ、中間と分けて記載したことの効果であると思われる。

本研究の課題：新たに得られた解釈について他の尺度との関連などを調査する必要があること、解釈にあたって参考となる解釈手順の例示が必要であること。

### 指導教員コメント

中原さんは、外国籍の子どもが多く在籍する小学校で3年間、定期的に動的学校画を実施し、先生方にフィードバックを提供する活動を続けてきました。その際、従来の動的学校画のスコアリング法に基づいた地道な分析も中原さんは行っており、結果を学会で発表しています。しかし中原さん自身が行う描画の読み取りはクリエイティブで、従来の解釈法に収まらなかったことから、今回の研究に至りました。この解釈表を学校で使ってもらえると良いですね。今回体験した、問題意識を結晶化する姿勢を、是非今後の臨床・研究活動に活かしてください。

森川友子